

2013年9月定例会 全員協議会質問

9月30日・宮川えみ子県議

宮川えみ子県議

日本共産党の宮川えみ子です。汚染水問題で質問します。原発事故で多くの方々が故郷を追われ、家族も地域の絆もばらばらにされ、仕事もなくし、先の見えない生活を送っています。失望のなかで命を絶つ人、病気になる人など関連死は1500人を超えています。また現在も14万人を超える人が避難生活を余儀なくされています。

原発事故はあらゆる分野に福島県のかたちを変えてしまうほどの重大な影響を及ぼしています。二年半が過ぎましたが事故は収束どころか危機的状況はかえって深刻です。炉心の状況も把握できない。溶けた燃料と燃料プールの冷却も仮設で、大きな余震に襲われたらどうなるのかと不安の尽きない生活を強いられています。避難を余儀なくされた仮設住宅の方のアンケートでは、「戻らない」という理由の半数以上が汚染水などの原発そのものの不安です。汚染水の拡大は制御できない状況に陥っていると思いますが、現状認識についておたずねします。

東京電力株式会社 代表執行役 廣瀬直己社長

お答えいたします。先ほど来の質問に少し被りますけれども、いわゆる汚染水の問題二つあると思っております、一つはタンクから8月19日に漏れが初検出されたということで、これは本当に私どものいわゆる普通の日常的な管理の至らない結果だと思っております、これは本当に改めなければならないと思っておりますし、今まさに改めつつあります。もちろんこれでパトロール等々を強化したからといって一滴も漏れないのかと言うことはもちろん違いますけれども、少しでも漏れれば発見できるようになって、それに対して早期の対策を打つということにしておりますし、またもうちょっと時間がかかりますけれども、漏れないようなタンクにしていくということだと思っております。一方で、地下水に運ばれると思われている部分については、どこにどういうふうに流れているのか。あるいは先ほどの高野（光二）先生のご質問にもありましたように、漏れているとしても、どこから漏れているのかということ突き止めていかないとはいけません。ですからしばらく完全な、もとからしっかり対策をとるということについては少し時間がかかるかと思っております。ただその間、外に、海に特に漏らさないように、あるいは溜めているタンクも出来るだけきれいにしておくように、と言うような対策をまさに進めているところで、根本的なところにはもう少し時間がかかると思っておりますけれども、とにかく漏れない。外に出さないというようなところでの対策をいまとっていると考えております。

宮川県議

放射能で海を汚さないことを明確にして、汚染水を海に流さないためのあらゆる手段をとるべきと思いますが、海に流さないということについてお答えいただきたいと思います。

東電 廣瀬社長

まさにそこが一番問題だと思いますので、流さない、漏らさないということをしかり、これからも対策をいくつかとってやっていきたいと思っております。

宮川県議

薄めて流すという立場になってしまいますと、これはずっと流し続けるということになって、海洋汚染がどこまで広がるかわからないわけです。漁業者だけでなく国内外で理解を得られないことは明白なので、絶対にそういう立場にさせないということを明確にして取り組んでいただきたいと思います。それから安倍首相のIOCでの発言についてなんですが、「港湾内の0・3平方キロメートル内の範囲で完全にブロック」「モニタリングをしていて数値は全く問題ない。完全に安全」と発言しておりますが、国会で、我が党の塩川議員の質問に対して、「首相の発言と同じだ」という認識をされたようなんですけれど、汚染水は完全に漏れていないという認識ですか。

東電 廣瀬社長

先週の金曜日に、衆議院の経済産業委員会で共産党の塩川先生からのご質問だったと記憶しております。私がお答えしたのは、総理大臣のその発言というのは港湾外での水の汚染状況であるとか、あるいはデータであるとか、ということについてコントロールされているというご発言だという私の方もうかがっておりましたので、その点に関しては私と全く同じ意見だと申し上げたと言うことでございます。

宮川県議

ちょっと詭弁ではないですか。さつきから地下水の状況がわからないということ言っていて、港湾内だけに流れているわけではない。港湾外にも流れている可能性があるわけですね。そういうことを調べないで、いま言ったような首相の発言というのは矛盾していると思うんですけどどうですか。

東電 廣瀬社長

私どものお配りした資料の二枚目でございますけれども、モニタリングのポイントというのは沢山ございます。そのなかで、いわゆる湾の外のデータももちろん取っております。そうしたデータを踏まえた上で、私ども先ほどのような判断をしているというこ

とでございます。十分低く、健康に影響のないようなレベル。あるいはNDと称される検出限界値以下というような数値だと思っております。

宮川県議

外洋に行けば、ちょっとしたモニタリングどころでわかるはずがないと思いますね。それから健康に害がないと言いますが、そんなことどうして言えますか。放射能というのは健康に害があるかないかというのは即判るわけじゃないでしょう。1号機だけでも5000トンの汚染水が地下に漏れたと言われてるんですけど、そういう点ではその辺のことについても判らないと言ってるんですけど、矛盾しませんか。

東電 廣瀬社長

もちろん健康被害等々については、魚を摂取しないとか、そういったかたちでも、当然の対策は取られていると思いますけれども、私どもがいま出来ることは、しっかりモニタリングをして、有意な変動がないように確実にする。もちろんおっしゃるように、海に入ってしまったらほとんどわからないじゃないかということはもちろんでございますので、もっと手前でももちろんやっているわけで、そうしたところで何らかの有意な変化があれば、それを手前のところでなんらかの対策が取れるという形にしております。

宮川県議

26日にシルトフェンスが壊れました。港湾内と外洋の海水は一日に50パーセント入れ替わっているというわけです。首相の発言は「完全に安全」と、「完全にブロックしている」と、こういう言い方してるわけですね。福島県民は誰もそんなこと信用していませんよ。だから先ほどからずっといろいろな質疑応答がありますけど、東電は信用できないと批判を受けているわけですけども、そういうこと言ってるから「東電は信用できない」とみんなに言われるんですよ。県民の声をこのことで聞きましたか。

東電 廣瀬社長

日ごろから私どものほうに寄せられる声や、こちらで仕事をしている人間が賠償などを通じて県民の皆様と接する機会がございますので、そういった話は聞いております。少しでも信頼を回復するように、これからも一生懸命やってきたいと思っております。

宮川県議

これから中間貯蔵施設の問題とか、いろんな問題が出てくると思うんですね。やっぱり東電の言ってることを信用できないと県民が思ったら様々な問題が進まないと思います。首相に、国の方に面倒を見てもらうからそういう言い方をしたのかもしれない

けど、ここは福島県議会ですから、完全にブロックだとか、完全に健康に影響ないとか、そういうことを言うようなことは、県民は絶対に信用しないということをおきま

す。

それから、首相が19日に原発に来たとき、地元のマスコミを入れなかったようですが、そのとき第一原発の5・6号機の廃炉要請を受けたと報道されています。どのような要請をされ、どのようにお答えしたのですか。

東電 廣瀬社長

三つのご要請を承りましたけれども、福島第一の5・6号機の廃炉についての要請と承っております、それに対して私は「5・6号機の取り扱いについて、年内までに判断する」とお答えいたしました。

宮川県議

どのような方向に廃炉を持っていく考えですか。

東電 廣瀬社長

5・6号機は年内に判断するという事で、まだ未定でございます。

宮川県議

県民の多くの声は、やはりこういう被害を受けた県民にとっては、とにかく燃料が入っていることそのものが非常に心配なんです、一刻も早く5・6号機の燃料は抜いてもらいたい。それから福島第二原発の方も、全基廃炉を求めています、やはり早く燃料を抜いてもらいたいという強い願いがあるわけなんです、5・6号機の燃料を抜くと言う話。それから第二原発の全基廃炉について、これも廃炉をもとめています、燃料を抜くということについておたずねします。

東電 廣瀬社長

5号機6号機の燃料を抜くということは、まだ詳細な計画は決まっておりますけれども、これは年末までに廃炉にするとかしないとかの決定とは別に、燃料は抜くと思っております。いまはとにかく1～4号機のことにとにかく集中してやるということがありますので、そうした中での計画を立てていきたいと思っております、いずれご指摘のように燃料は抜きたいと思っております。第二については、先ほどのくり返しになってしまいますけれども、いろいろなご意見をたまわりながらこれから決めていきたいと思っております。

宮川県議

5・6号機の燃料を抜くことを考えているということですが、時期的なことは言えますか。

東電 廣瀬社長

抜いたものをどこに入れるかなど総合的に計画しないと行けませんので、まだいつ抜くかということはお示しできませんけれども、ご心配のところもあり、抜いていこうと。そうすることで管理のレベルも変わってまいりますので、そうしたことをしていきたいと思っています。

宮川県議

第二原発の全基廃炉も県民と県議会の総意ですので、早急に廃炉の決断をしていただきたいと思います。それから、社長もおっしゃいましたように、高濃度汚染水の貯蔵タンクについて県民が非常に心配しております。塩害での腐食対策、低周期地震での汚染水の動きでタンクがもつかどうか、台風や大水対策、複合的な災害対策、こういったことについてお示しいただきたいと思います。

東電 廣瀬社長

タンクは今回のこともございまして、本当に皆様にご心配をおかけしておる所だと思っております。基本的につくる段階でどれくらいの地震に耐えられるかという解析は行っておりまして、それは十分耐えられるという結論が出ておりますけれども、念には念を入れてということだと思っておりますし、まずは出来るだけ危険の少ないかたちで貯蔵していくということも一つでしょうし、堰の高さを上げて万が一漏れ出したときに耐えられるようにするとか、あるいは水位計をしっかりしたものをつけるとか、とにかくしっかりと管理をして、そういったことのないようにしたいと思っています。

宮川県議

問題が多いフランジ型のタンク。350基あるということですが総点検はされてますか。漏れの状況はどうなっているのでしょうか。

東電 廣瀬社長

ご心配をおかけしている特にフランジ型のタンクにつきましては、9月の初めからパトロール体制を強化しまして、いまは一日4回見しております。当初9月の初めから始めた段階ではなかなか見つからなかったものも、これだけ沢山の目で見ますので、いくつか小さな、過去に漏れた跡とか、パッキンが少しはみ出ているとか、当初の二・三日みつけたことはございましたけれども、それ以降は毎日毎日4回見しておりますのでしっかりと管理が出来ているだろうと思っていますのでございます。

宮川県議

溶接型に移し替える計画ということですが、いつ頃までに完了予定ですか。

東京電力株式会社 福島第一原子力発電所 高橋毅所長

これにつきましてはまさに今移し替える計画を立てているところでございまして、9月に行われた現地調整会議でも国あるいは県の事務局の方からご指摘を受けております。これについては計画をいま立てていまして、次回の現地調整会議が間もなく開かれますので、ある程度こういうかたちでリプレイス（移し替え）していく。こういったものをお示ししたい。このように考えていま鋭意取り組んでいるところでございます。

宮川県議

次回の調整会議までには移し替える計画を示せるということですが、それはいつですか。

東電 高橋所長

具体的には承知しておりませんが、前回の調整会議が開かれましたときに、概ね一ヶ月程度ぐらいではなかろうかというお話があったと記憶してございます。

宮川県議

溶接型のタンクの方は長期保管が可能なんですか。

東電 高橋所長

溶接型のタンクにつきましては、フランジのように、ボルトでパッキンのようなものを留めているという構造がないので、そういったところの劣化に起因するようなかたちでの不具合は対しては、そういうことがないということで、その部分についてはある意味長持ちするということだと思います。しかしながら、だからと言ってすべて100パーセントということはないので、溶接タンクにつきましても、しっかりとした施工の管理をする。それから先ほどご指摘のあった塩害とかそういったものもありますから、外部の塗装をちゃんとする。そういう品質管理をしっかりするとともに、あとは実際パトロールも、溶接タンクだからやらないということではなくて、しっかりやって管理をしていく。そのように考えてございます。

宮川県議

施工管理とかをしていけば、かなり10年単位とか何十年単位とか、今後のいろいろ

汚染水に対する対策をどうするかということと係ってくると思うんですね。どこまで溜めていかななくてはいけないか、どこまで他の技術が進んでいくかという、競争のようになると思うんですけど。その辺は、比較的安定・安全に管理できるタンクの寿命というのはどんなふうに考えているんですか。特に海沿いにあるような場合。

東電 高橋所長

ああいった溶接タンクについては、いま入れているような廃液を貯蔵したタンクというのは私も実は残念ながら経験ございませんが、ああいったところでの塩害とか諸々のことに対しましては、福島第一原子力発電所に於きましても、屋外にああいった溶接型のタンクが幾台かあります。それについてはそれこそ40年、ずっと管理されてきましたので、一定程度そういった管理は出来るというふうに考えてございます。

宮川県議

タンクが設置されてる敷地内なんですけど、原発ができる前に三本の川が流れていたと、原発ができる前に。そういう航空写真もあるんですけど、地質についてはどうですか。

東電 高橋所長

福島第一の地質でございますが、建設のときにいろいろボーリングなどやりまして調べてございます。それによりますと、基本的にはなだらかに地層が積み重なっていて、若干海側に傾斜していますが、そういった沢の跡などありますが、いま特に各号機が立地している場所、そういったところの周辺では地質上問題があると言ったデータは出てございません。

宮川県議

時間との関係がありますが、地質の問題もこれからいろいろ出てくるんじゃないかと思うので、十分な調査をお願いします。それから凍土壁についてなんですけど、国が前面に出た対応ということなんですけど。凍土壁をつくるということになった協議、どうしてこの方式になったかということについて経過をお示ししたいと思えます。

東電 廣瀬社長

これは廃炉対策会議という会議、経済産業大臣が議長でございまして、私もメンバーに入っているんですけど、そこの下で汚染水対策委員会というものがあまして、そこで水が入ってくる400トンを減らしていくためにいろいろな策を考えなければいけないというところから、そうした案が出てきまして、まだ決定ではございませんけれども有力な案の一つとしてこれから作業していこうという段階でございまして。

宮川県議

建設費と維持管理経費はどれくらいになると試算されてますか。

東電 廣瀬社長

これは国の予算でやるということでこれから公募をされてこれから決まっていくこととございますので、私どもがどうこう出来ることではございませんけれども、ご存知のように470億の予算規模で第二ALPSと称されているものが150億と聞いてますので、残りが凍土系のものではないか、これは全く巷間言われている程度のもので、これから決めていかなければいけない数字だと思っておりますけれども、掴みとしてはそんなものだとお聞きしてます。維持管理費についてはまだこれからでございます。どういう形の、どういうスペックでやるのかにもよって大分変わってくると思います。

宮川県議

トラブル続きのALPSなんですけど、これを順調に運転するという点では、今後どのようなことに注意を必要と見てますか。

東電 高橋所長

今回また運転を再開したところでトラブルで心配をおかけして本当に申し訳ございません。これについてはかなり初歩的なミスで内部に物を置き忘れた、といったことでこれは徹底的に管理していきたいと思えます。ALPSの今後の運転ですけれども、いずれにしましても、そういった設備を運転するということでの基本的なやり方をまずしっかりやるのがもちろんです。それから、もう一つは基本的には新しい設備でございます。今回穴があいてしまったというトラブルがあって、修理を施して、さらに対策を打って立ち上げたわけですが、それについてもこれで万全だと過信することなく、これから運転状況を頻繁によく見ていく。そのなかで、実際に想定したような例えば腐食のすすみ具合ですが、そういったものであるのかどうかしっかりチェックして、早めにそういった兆候をとらえて、必要があればさらにフィードバックしていく。そういったことを確実にやっていくことでALPSの順調な稼働に結びつけたい。そのように考えてございます。

宮川県議

穴のあくトラブルって新しいのにどうなのかなと思うんですけど、造りの中に問題があるということではないですか。

東電 高橋所長

これについては“造り”というのはいろいろな意味があるので、施工が悪かったとか

そういう意味での造りではないと思っております。基本的な設計、デザインの話で、薬液を扱うので腐食には弱いということがありました。それについてステンレスの高級な材質のものを採用することで十分と考えていたが、それが実は甘かった。沈殿物が出て、さらに微小な隙間が出たときにステンレスと言えどもやはり腐食すすんでしまう。そういうモードがある。それについては実際の状況についての配慮が足りなかったということだと考えていますので、施工じゃないデザイン、設計そのものまで含めて見直す対策をとりました。これについても先ほどのくり返しになりますが、それで万全かどうかしっかりとチェックをしながらやっていく。そういったことが大事だと考えてございます。

宮川県議

あらゆる想定でお願いしたいと思えます。それから真の収束を推進する要になる労働者の安全確保なんですが、現場から、タンクをつくってる人からの告発なんですけど、とにかく人材が集まらなないと、ネジを右に回すか左に回すかわからない人が来たり、工具の名前がわからない人が来たり、タンクの下にコンクリートの地盤をつくるのに波打っているようなことになって、そこに水が溜まって腐食の原因になるとか、まあいろいろな訴えがあるんですね。やはり人材をちゃんと確保するには、労働条件の確保というのが非常に大事だと思うんですね。それで東電の方でも公に、去年の三月までに危険に対する手当について必ず届くようにするって公表しているんですけど、東電自らのアンケートでも半分の人しか「もらっていない」って答えているんですね、このようなことを改善して確実に実際作業している人に東電が出している危険に対する手当が届くようにしていただきたいと思うんですが、どういうところに要因があってどういう対策をすれば可能だと思いますか。

東電 廣瀬社長

構造的にいわゆる多重の請負、三次・四次ということにも原因があるのではないかと思っております。私ども直接作業をされてらっしゃる方へのアンケートを取って、直に間を抜いて話を聞くなり、ただ契約関係で言いますと私どもは元請けさんへの契約。それから先はそれぞれということになりますので、なかなか手元まで届かないということがあるかもしれませんが、少なくとも私も出て元請けの方々を集めて、そうしたことについての再三のご注意を、私が出ただけでも二度ございますけれども、そうしたことをしっかりやっていくと。あるいは定期的に直接そうした方々、いま先生がご指摘のような、ちょっと告発めいたことかもしれませんが、実態はこうだということ把握して行って、契約してらっしゃる会社の方々に注意をしていただくと考えております。

宮川県議

全力を尽くしていただきたいと思います。廣瀬社長にお聞きしたいのですが、汚染水問題では、すぐに漏れるとわかっているような、産業廃棄物の裁判になったような、素人でもすぐ漏れるとわかるようなやり方をしたり、フランジ型はだめだと当初から言われているんですけど、そういうのをやってみたり、非常にこの汚染水問題には、工事の点検の手抜きとかそういうのが繰り返されてて、非常に問題だと思うんです。汚染水の事態をここまで深刻化させた大元には、コスト優先と、「最後は流せばいい」という考えがあるんじゃないかと思うんですけど、どうですか。

東電 廣瀬社長

汚染水の問題、現状がこういう状態でございますので何の言い訳も申し上げませんが、ただコストを優先して安かろう悪かろうのようなものを我々が発注したというのは全くないと思っております。我々が優先したのはとにかく時間でありまして。スピードはとにかく早めてくれと。したがって溶接型のタンクを選択せずにフランジ型のタンクを選択したのも、スピードでございます。必ずフランジ型のタンクが漏れるということではもちろんないです。二年前の状況というものを、ご記憶を呼び戻して頂きたいのですけれども、とにかく水をぐるぐる回すと。それからとにかく水を冷やしていくんだということ、そして無事にどンドンどンドン溜まってくるぞということから、とにかくタンクをつくらなければいけないということだったと思っております。そういう意味での管理の不行き届きであったり、施工の甘さがあったのかもしれませんが、とにかく今おっしゃったようなことがないように先の一兆円も含めて、しっかり使うべきものについてはお金を使うと、そういう環境を整えていきたいと思っております。

宮川県議

柏崎刈羽原発の再稼働を申請しましたが、再稼働に注ぐために人もお金もつぎ込むことになるので、汚染水対策に全力をあげられなくなるのではないかと心配しておりますがどうですか。

東電 廣瀬社長

いわゆる世の中の皆さんのお気持ちとして、福島がこんなときに柏崎とはなんだ、というお気持ちはよく私どももお聞きしているところでございますが、考えてみますと柏崎は柏崎で発電所が立地してしまっていて、その中には先ほどご質問にありましたように燃料が原子炉の中に入っております。そうした状態ですので、我々はそこもしっかり安全対策をして、それについてチェックをして回って、足りないことがあればさらなる手を打っていくということが絶対必要だと思っておりますので、もちろん柏崎をやることによって福島での対応が疎かになると言うことはゆめゆめあってはならないと思っておりますが、福島は福島でしっかりやってまいりますけれども、柏崎は先ほど申

し上げた理由で申請をさせて頂いたという事でございます。

宮川県議

気持ちとかなんだということではなくて、同じ東電でやっている話なので、人もお金もそっちにつき込んだらその分こっちに来なくなるんじゃないか。このことについてどうですか。

東電 廣瀬社長

柏崎には七つの原子炉ユニットがございます。それをしっかりメンテしている人間がいま1500人おります。これはこれでその必要な人員ですので、そこはそこでしっかり、それだけの人間をかけて、必要なお金をかけてやっていかなければいけないと思っておりますし、福島は福島でもちろん先ほど来申し上げているようにしっかりやっていかなければいけないと思っておりますので、両方しっかりやっていかなければいけないと思っております。

宮川県議

それは無理だと思います。再稼働申請ということは、全ての対策をこの事故処理と汚染水対策のために使って、知事が言っているように「国家非常事態」という認識で取り組むということにはならないと思います。汚染水問題は経営上の都合を優先させて、場当たり的な対策を続けてきた結果がこういう深刻な事態を招いたと私は思います。東電は民間企業ですから、あらゆる面で企業防衛という形が働くと思うんですね、でも少しでもいま企業防衛の考え方があったら、この危機的状況に対する汚染水対策は出来ないと思います。共産党は全ての違いを超えて、英知を結集してこの問題に総力をあげて取り組むことを求めてきましたが、社長も認めるように、事故処理・賠償・除染、まともにやろうとしたら、東電の見積もりをはるかに超えるわけですね。破たん処理をして、資産の洗い出しの徹底、メガバンクの債権放棄、東電の利害関係者に当然の責任を取らせる必要があるということを申し上げたいと思います。

一分あります。賠償問題についてです。県民の被った精神的賠償も認めるべきと思いますがおたずねします。

東電 廣瀬社長

避難をされていらっしゃる方への精神的損害ということでのお支払いをしておりますし、それから自主避難の方々に対しても応分の負担をお支払いさせていただいていると考えております。

宮川県議

応分の負担というのはどういう負担ですか。

東電 廣瀬社長

これもまた指針を持ち出して恐縮でございますけれども、第三者的立場の先生方がお示しいただいたものをベースに負担させていただいているということでございます。

宮川県議

精神的賠償は頂いていないと思います。検討してください。それから指針という話が出てきておりますが、今までの質問でも出てきたんですけれども、東電はいろんな場面で賠償指針にないから一切賠償しないというかなり頑なな態度なんですね、25日にここで国の方をお呼びして、全員協議会でやったんですけど、文部科学省は賠償指針は最低のことを決めたものだということなんですね。指針が最低基準のことを決めたという認識はありますか。

東電 廣瀬社長

指針というのはですね、これだけ沢山の方々が被害を被られているなかで、賠償をどんどんどんどん進めていく一つの目安と私どもとらえておりますので、基本的にはもちろん指針を拠り所にして賠償をさせていただきますけれども、個々のケースについてはよくご事情をお聞きして賠償にあたっていきたいと思っております。

宮川県議

一つの目安でなくて最低基準ということで皆さんのいろんな要望に対処していただきたいと思います。それから財物賠償なんですけど、東電が示した基準では新しく土地を求めて家を建てることができません。東電が示した賠償を再取得可能な賠償に見直すべきと考えますが見解を求めます。

東電 廣瀬社長

その点につきましても、紛争審査会でご議論いただけるとお聞きしておりますので、そこにしっかりうたって頂きたいと思っております。

宮川県議

苦難の極みにある県民が、新たな出発が可能になるような賠償になるように強く求めておきます。以上です。

以 上